

検討の方向性と審議スケジュールについて（案）

第1回検討会

1) 方向性の確認

①動向調査をさらに深掘りし、より精度を高めた議論を行う

（論点）

- ・ ニーズ
- ・ 技術的実現性（性能・コスト）
- ・ 競合技術との違い
- ・ 利益（顧客、市場）
- ・ 2008年度の調査委員会の「仮説」を徹底検証
- ・ 利用シーンの分析と必要となる技術の開発戦略
- ・ 周波数利用の考え方

②デモ実験により有用性や実現可能性を検証・アピールし、関心を喚起、議論を活発化

③本検討会の成果の出口

- ・ 報告書の作成、関連会合での報告・提言
- ・ 海外に向けた情報発信、IEEE標準化会議での提言
- ・ 技術開発のためのファンドの要請（応募）

2) スケジュールの具体化

①各会合での討論テーマ

②デモ実験

- ・ 作業部会の設置（構成員、部会長の決定）

③具体的な日程、委員の役割分担

3) 会議資料と議事内容のとりまとめ

- ・ 各回のテーマに担当委員を割り当て
- ・ 会議資料は、検討会開催日の遅くとも3日前までに委員に配布
- ・ 担当委員は、会議資料をもとに論点を明確にしておき、各検討会の事前会議で確認
- ・ 担当委員は、A4一枚程度の議事のまとめを作成
- ・ 報告書は、原則各検討会での資料に上記まとめを表紙として編綴

第2回～第4回検討会

1) 技術トレンドとニーズ分析

①コンテンツを作成・利用する技術のトレンド（主に高精細映像技術）

「日本がリードする高精細映像技術関連で今後無線に対してどのようなニーズがあるか」

- ・ 放送業務（番組制作現場）におけるニーズ
- ・ 情報家電におけるニーズ（カメラ、ビデオ、ディスプレイ）
- ・ 医療機器におけるニーズ
- ・ その他（3D・超臨場感映像技術はどう位置づけるか等）

②コンテンツを流通する技術のトレンド

「上記のような大容量コンテンツをどのように流通、場合によってはシェアさせるか」

- ・アクセス、ホームネットワーク技術
- ・ストレージ技術（HDD、SSDほか）

③テラヘルツ無線の利用シーン

- ・より具体的なイメージを描く
- ・上記以外の応用（例えば将来の無線インターコネクション）

2) 最新高速無線技術（競合技術）のトレンドと動向分析

①マイクロ波

②ミリ波

③赤外線

3) テラヘルツ無線のターゲットと技術的な実現可能性

①未割当周波数帯の利用のあり方

- ・IEEE標準化会議での議論の整理
- ・受動業務との関係（共存の可能性）、干渉の問題（電波天文関係）

②技術的アプローチの議論、性能やコスト面の議論

- ・半導体電子デバイス技術の進展と可能性（CMOS, 化合物）
- ・半導体光デバイス技術、光電気融合技術の進展と可能性（QCL, 光電変換素子）

③テラヘルツ無線のターゲットと技術ロードマップ（デバイスとシステム）

- ・各利用シーン（応用）に対応するデバイス、システムの在り方（帯域、方式など）

4) デモ実験の検討と実施（デモ実験作業部会が上記と平行で検討）

①具体案の決定（第2回検討会）

②実施に向けたスケジュール決定（第3回検討会）

第5回検討会

1) デモ実験の報告

2) これまでに足らなかった（深堀できなかった）テーマの議論

3) 報告書のとりまとめ方の議論

「テラヘルツ波帯の情報通信利用に関する調査検討会」スケジュール（案）

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査検討会	<p>○第1回会合 (9月18日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置趣旨・要綱 ・座長指名 ・研究紹介 ・検討の方向性 ・審議スケジュール 	<p>○第2回会合 (10～11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレンド、ニーズ ・競合技術との違い① ・技術的実現性① ・デモ実験検討① 	<p>○第3回会合 (11～12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競合技術との違い② ・技術的実現性② ・デモ実験検討② 	<p>○第4回会合 (12～1月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コスト上の実現性 ・マーケット見込 ・まとめ 	<p>○第5回会合 (1～2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書取り まとめ 等 		
デモ実験				<p>○デモ実験（12～1月） 有線系情報通信ネットワークと 家電等を接続（10Gbps）</p>			